大阪大学先導的学際研究機構附属月面都市開発研究センター
全学組織化第一回開設記念シンポジウムの開催について

広報・データ管理室（兼）月面都市開発研究センター

URA　森下　麻紗代

令和 8 年 7 月 28 日（火）、大阪大学先導的学際研究機構附属月面都市開発研究センターの「第一回開設記念シンポジウム」が大阪大学中之島センターにて開催されました。大阪大学には、月面で直面する多様な課題に対応可能な研究シーズを有する研究者が複数の部局に在籍しています。こうした知見を結集し研究力の強化を図ることを目的として、昨年 5 月に産業科学研究所内に月面都市開発研究センターが設置されました。その後約 1 年間の活動を経て、本年 4 月には全学組織へと発展的に改組され、本シンポジウムはその全学組織化を記念して開催されました。

本シンポジウムには高い関心が寄せられ、会場には 78 名が参加し、オンライン参加者も 74 名に達しました。また、各種メディアで大きく取り上げられたほか、講演中には活発な質疑応答が行われ、終了後の名刺交換会にも多くの参加者が残るなど、月面都市開発研究への期待の高さがうかがえる機会となりました。今回のプログラムは演題を厳選し、各講演をじっくり聴講できるよう構成するとともに、十分な質疑応答の時間を設けました。接合科学研究所からは、月面都市開発研究センター長でもある藤井英俊所長が「月面でのエネルギーと空気の作り方」と題して講演を行いました。講演では、月面環境におけるエネルギーや酸素供給の課題について解説するとともに、接合科学研究所が誇る「3 大 AM」についても紹介されました。

また、情報科学研究科（大阪大学月面都市開発研究センター兼務）の山口弘純教授は「宇宙ネットワーク時代を拓く通信・衛星制御シミュレーション技術」、JAXA 宇宙科学研究所の春山純一助教は「月の縦孔・地下空洞　～人類ふたたび月へ～」と題して講演を行い、聴衆の高い関心を集めました。

月面都市開発研究センターでは、今後も継続的にシンポジウムや勉強会を開催し、宇宙・月面開発に関する先端的な知見を広く社会へ発信してまいります。



藤井所長の講演



会場の様子